

## 「河川への遡上津波対策に関する緊急提言」について

「津波防災を考える上で、海岸での防御と一体となった河川津波への対策が重要であることを認識する必要がある。特に、河川はまちづくりと密接に関連した公共空間であり、津波防御の面からも、まちづくりの面からも、河川は津波防災まちづくりに重要な役割を有している。」との認識の下で、被災河川における早期の復旧・復興対策に資するべく、また全国における河川津波対策が円滑に進むよう、河川津波対策の考え方について緊急的に提言されたものである。

### 主な提言内容

施設による津波対策を実施する「施設計画上の津波」（いわゆるレベル1の津波）に対する河川管理としての取り組み及び「最大クラスの津波」（いわゆるレベル2の津波）への対応、さらには今後の取り組みについて提言された。

#### 1. 河川津波対策の基本

##### (1) 河川管理における津波の位置付け

河川津波は、洪水と並んで計画的に防御対策を検討すべき対象と位置づけるべきである。

##### (2) 河川管理における施設の諸元等を定める津波

河川管理における施設の諸元等を定める津波を「施設計画上の津波」※とすべきである。また、「最大クラスの津波」※は施設対応を超過する事象として扱い、津波防災まちづくり等と一体となった減災の対象と考えるべきである。

※「中央防災会議東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会中間とりまとめ」より。

#### 2. 「施設計画上の津波」に対する河川津波対策

##### (1) 津波防御の考え方

津波防御の方式としては、堤防方式と津波水門方式を基本とするが、社会的な影響、経済性等を総合的に検討した上で判断するものとし、他の手法等についても必要に応じて検討すべきである。

##### (2) 河川管理における津波外力の扱い

河川における水理現象から見て、津波は明らかに洪水や高潮とは異なる外力であり、河川津波は浸食作用に対して護岸等の構造上必要な措置を講じることで堤防の安全を確保する外力と考えるべきである。

##### (3) 施設計画上の津波

施設計画上の津波は、河口が位置する地域海岸の設計津波と同一の津波を基本として設定すべきである。

##### (4) 計画上の河川津波水位

河口より施設計画上の津波の遡上到達範囲を津波遡上区間として設定し、津

波防御における河川堤防の高さを定めるための水位として、計画上の津波水位を設定すべきである。

#### **(5) 河川堤防の高さ**

津波対策としての河川堤防の高さは、計画上の津波水位に必要と認められる高さを加えて設定すべきであり、必要と認められる高さは、隣接する海岸堤防の高さとの整合、周辺のまちづくりとの関係等を勘案して設定すべきである。河川津波の水位は、河口から上流に向かい低下するのが一般的であり、河川堤防の高さはそのことを踏まえて、合理的に設定する必要がある。

#### **(6) 河道及び河川構造物**

##### **①河道の条件**

計画上の津波水位は、河口砂州はないことを、河道は改修を見込んだ計画上の縦横断形を基本として設定すべきである。

##### **②堤防の構造**

河川堤防の耐震対策を計画上の津波水位を考慮して着実に実施することは河川津波対策としても重要である。

### **3. 「最大クラスの津波」への対応**

施設計画上の津波を上回る津波による河川からの氾濫、あるいは引き波時における氾濫水の排水などは津波防災まちづくりにとって重要な要素と考えられる。河川管理者は津波防災まちづくりの一員としてハード・ソフト両面の対策について総合的に検討していくべきである。

### **4. 津波防災まちづくりの推進と河川管理の充実に向けて**

#### **(1) 河川津波対策に関する技術開発・調査研究の推進**

①河川津波の水理現象を理解し、対応していくための調査研究の促進。河川津波及びその氾濫の予測する数値シミュレーションモデルについて解析精度の向上

②津波による河口域での水理現象や河道の河床変動等のデータ収集、調査研究の推進

③津波に関するデータの蓄積と河川における津波観測の強化

④河川堤防の構造強化のような質的改良は着実かつ持続的に実施

#### **(2) 津波防災まちづくりの推進のために**

①都市分野との連携の強化

②津波の氾濫に関する避難計画の検討、防災教育への取組、ハザードマップの作成、水防の充実といったソフト施策の充実

#### **(3) 河川管理の充実に向けて**

河川津波対策に関連した制度や技術基準の検討について、関係部局において速やかに取り組むことを強く要望する。